

未来につながる水田農業へ

県産米の多様な需要に応え、 水田農業の未来を切り拓きましょう！

現在の米をめぐる情勢

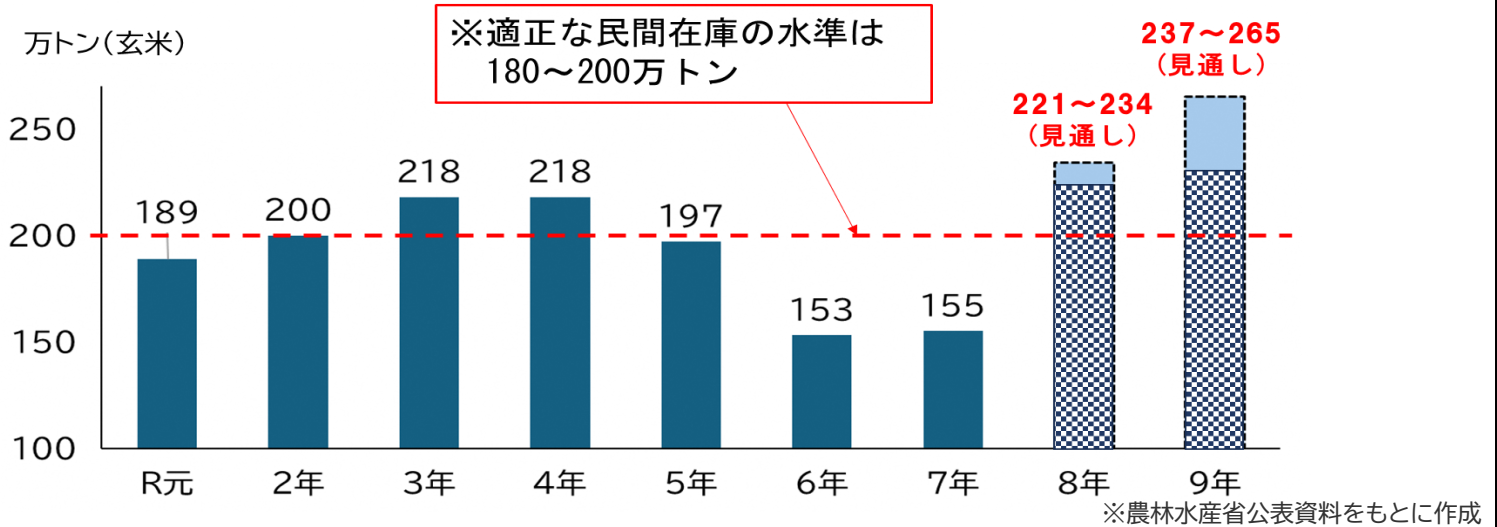
- 現在、主食用米の民間在庫量は過去に例のない水準となることを見込まれています。米余りの状態になると、**米価は大幅に下落し**、生産コストを割り込む可能性があります！

※堂島取引所による米穀指数市場(先物取引)では、**令和7年10月から令和8年10月にかけて、1俵当たり1万7千円以上の下落幅の見通し**となっています。

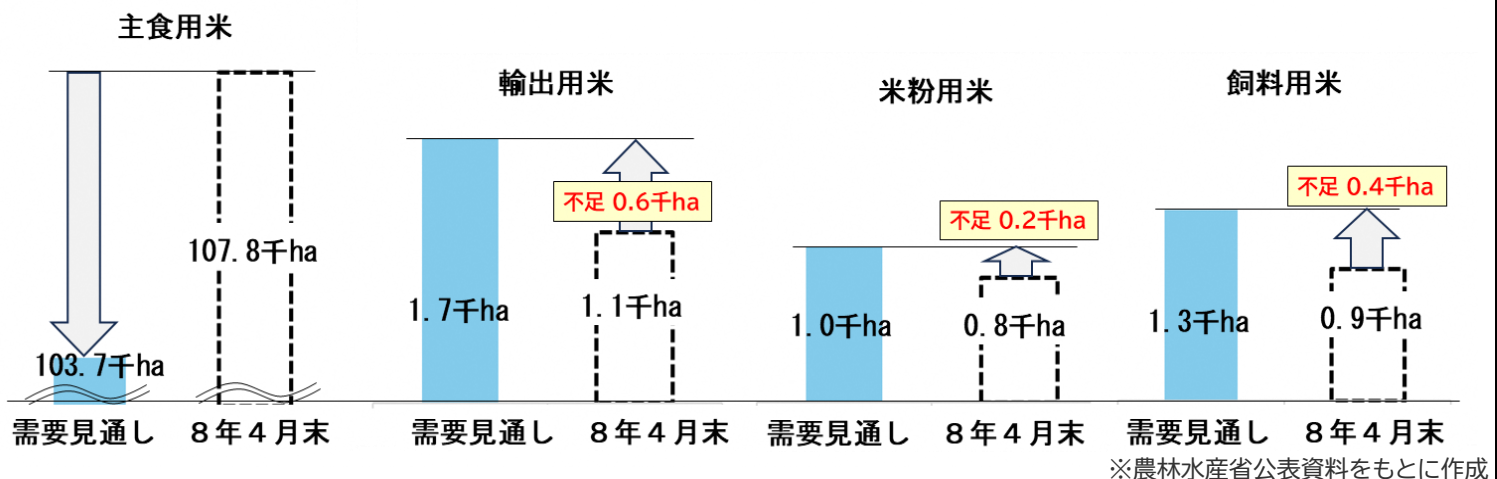
- 一方、県内の作付意向(4月末)によると、**輸出用米、米粉用米、飼料用米等は、需要見通しに達していません**。このため、**主食用米から非主食用米への転換をお願いします**。

- 生産者のみなさんが安定して農業経営を続けるためには、**需要と供給のバランスがとれ、安定した米価のもとでの生産が大前提**ですので、関係者が協力して需要に応じた生産に取り組むことが必要です。

【主食用米の需給見通しと民間在庫量の推移】



【本県の水田における作付意向(4月末)と需要見通しの比較】



未来につながる水田農業へ

県内生産者の声

(農)木津みずほ生産組合・坪谷さん

(下越地域:輸出用米13.1ha、加工用米3.3ha)

実需等と直接取引をしている農家は、販売、在庫状況等を踏まえ、農協等に委託販売している農家は、農協等と相談して、自ら用途・作付規模を決めることが必要である。



(有)山波農場・山波さん

(中越地域:輸出用米20ha、加工用米20ha)

新之助の輸出をしている。本当は国内の主食用として販売したいが、将来のことを考え取引先とのつながりを大切にしていきたい。



(株)LightField・丸田さん

(上越地域:米粉用米2.4ha)

主食用米の価格や需要が見通せない中、米粉用米はしっかりした需要がある。また、多収品種や複数年契約に加え、国・県の支援策をフル活用することで、10アールあたり20万円程度の収入が見込まれ、経営のリスク分散上とても有効と考えている。



【県の支援事業】

① 農地集約プラス多用途利用米団地化定着支援事業

<多用途利用米団地化定着タイプ>

酒造好適米、もち米、非主食用米の団地化を支援(支援額2万円/10a)

② 産地交付金・県設定支援

加工用米、輸出用米、米粉用米等の生産を支援

(支援額:加工用米・輸出用米1万円/10a、米粉用米1万~1.5万円/10a)

○取組計画書・水田活用直接支払交付金の交付申請書は6月30日までに北陸農政局新潟県拠点に提出してください。

【農業者の皆様】

現在「水田活用直接支払交付金」に申請していなくても、集荷業者等の合意が得られれば、交付申請が可能です。お考えの方は**早めに集荷業者等にご相談**ください。

【集荷業者の皆様】

取組計画書は、実需者等の契約相手方の同意を前提に、**8月20日まで変更が可能**です。